

今年度開催の研修から

今年度も「こども教育研修会」「保幼小研修会」には、お忙しい中たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。参加の皆様から感想をいただきましたので一部を紹介します。

⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘ 【こども教育研修会】 ⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘・⌘

第1回 大島 みずき 先生 「遊びの中の学び」

「子どもの気付きや発見を大切にすること」が印象に残りました。子ども自身が気付くまで待ってみたり、子どもの疑問や気付きを受け止め、疑問をもつような働きかけをしたりしていくことが大切だと分かり、保育に活かしていきたいと思いました。

第2回 高梨 珪子 先生 「子どもの生活や遊びの姿から保育を振り返ろう（評価）」

毎日の振り返りを大事にすることで、次の日の保育が決まる。事実のみの列挙にせず、「なぜそうであったか」をしっかりと考えること、同じ状況が過去にあっても、幼児は違うので同じ出来事だと思わないことなど、これらのことを日々意識しながら振り返りをしていきたいと思います。

第3回 聖徳大学教育学部児童学科 教授 河合 優子 先生 「幼児期における資質・能力の育成」

おままごと一つでも資質・能力の3つの柱が存在し、子どもの言動一つ一つに学びがあることが分かりました。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿ばかりに気をとられず、子ども一人一人の育ちを丁寧にみて、大事にしていくことが、結果的に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に近づくのだと改めて思いました。

第4回 東京大学大学院教育学研究科 発達保育実践政策学センター（CEDEP）

准教授 野澤 祥子 先生 「乳幼児期の他児とのかかわりを支える保育者の援助」

幼児の関わりを支えるためには、安心して過ごすことや、お互いが安心して遊べるのが大事であることが再確認され、担任の立場からやらなくてはいけないことが明確になったように思います。教師間の関係も幼児に影響を与えるため、互いに意見を言い合える関係を作りたいと思います。

第5回 永井 広子 先生 「気になる子どもへの支援・取組～幼児教育の実践から学ぼう～」

子どもの行動を事実で捉えるのではなく、捉え方を変えてみたり柔軟に考えたりすることが必要だと感じました。「子どもに任せる」ことで子ども同士の関わりで成長していくことや、保育者の言葉かけ一つで今後が変わるということ、自分一人だけで悩まず園全体で考えることが大事だと分かりました。

第6回 山口 裕子 先生 「気になる子どもへの支援・取組～小学校の実践から学ぼう～」

子どもには、それぞれの子なりの、子ども道があるという言葉が印象に残りました。一人一人が、その子らしくいられるよう、その子の背景を考えて、その子に合った支援を考えていきたいと思いました。通級教室が、子どもの大切な場所になっていることが良く分かりました。

第7回 関谷 祐貴子 先生 「気になる子どもへの支援・取組～出前相談の実践から学ぼう～」

気になる子の特徴、時間のまとまり意識、始まりと終わりの感覚が薄いということで、その子の興味に合わせた手がかりをつかみ、視覚化していくことがとても有効であるという事例が、とても分かりやすく実践しやすいと思いました。その子に合ったツールを使用しながら伝えていくことで、「気になる子」も少しずつ生きやすくなっていくと改めて感じました。

第8回 田子 文子 先生 「質の高い保育実践～話し合い学び合うチーム力～」

語り合いが大切という話が印象に残りました。子どもたちの気付きを拾い上げるために、少しの時間でも、子どもについて語り合う時間をもてるよう心掛けたいと思いました。最後の「明日子どもに会うのが楽しみになるように」という言葉も印象に残りました。楽しみになるよう語り合いを大切にしていきたいです。